

筑前剣道部だより

2023年7月号

-思無邪- NO. 18 CHIKUZEN

この夏だけは、負けてはならん！！

来たる玉竜旗！

玉竜旗まで残りわずかとなった。7月2日に玉竜旗の壮行会・激励会が本校体育館で開催され、多くの方が応援に來られました。稽古には多数の先輩・先生方が参加して下さり、生徒たちは改めて玉竜旗に向けて頑張る気持ちで湧いたと感じます。昨年は、女子が2回戦、男子が1回戦と良い結果を残すことができなかったのですが、今年は全力をかけて挑みたいと思います。3年生にとって良い試合となるように期待を込めて。



OB事務局長
杉野さんの稽古挨拶



昨年度卒業生



参加者一覧 OB・OG

- 若松 猛 様 (第1期生 OB会長)
 - 木龍 秀孝 様 (第2期生 OB副会長)
 - 山下 忠泰 様 (第2期生)
 - 三島 茂之 様 (第3期生)
 - 小林 貴博 様 (第3期生)
 - 杉野 正裕 様 (第4期生 OBI事務局長)
 - 平川 忠久 様 (第9期生)
 - 古森 修一 様 (第12期生)
 - 草野 英也 様 (第25期生)
 - 西 雄一郎 様 (第26期生)
 - 瀧上 麻衣 様 (第38期生)
 - 山下 実乃乃 様 (第39期生)
 - 袈裟丸 湧太郎 様 (第40期生)
 - 岡野 虎太郎 様 (第40期生)
 - 石井 達徳 様 (第40期生)
 - 福井 清一 様 (第41期生)
 - 高橋 那欧 様 (第41期生)
 - 石川 僚高 様 (第41期生)
 - 徳重 辰男 様 (32期生保護者)
 - 石井 孝徳 様 (40期43期生保護者)
 - 石井 聡子 様 (40期43期生保護者)
 - 永尾 正和 様 (42期生保護者)
 - 永尾 文子 様 (42期生保護者)
 - 國友 利里 様 (39期43期生保護者)
 - 角 貴子 様 (42期生保護者)
 - 末松 穂 様 (43期生保護者)
 - 本多 他一 様 (43期生保護者)
 - 本多 緑 様 (43期生保護者)
 - 中村 寿則 様 (43期生保護者)
 - 中村 しのぶ 様 (43期生保護者)
 - 武久 祥子 様 (43期生保護者)
 - 谷口 由美香 様 (43期生保護者)
 - 瀧上 英敏 様 (38期44期生保護者)
 - 瀧上 恵子 様 (38期44期生保護者)
 - 三島 仁志 様 (44期生保護者)
 - 三島 由加里 様 (44期生保護者)
 - 三島 葉月 様 (周船寺少年剣道 6年生)
- ※受付に記載のみ掲載しております。
他多くの方のご参加ありがとうございました。

「剣道部OGより玉竜旗激励メッセージ」

剣道部第12期生 三角真由美 (旧姓山田)

志摩引津小学校→志摩中学校→筑前高校→筑紫女学園
↓福岡医療専門学校柔道整復科入学→中央区佐々木整
骨院勤務→令和4年 城南区別府にて三角整骨院開業

私には上は大学3年生から下は小学5年生まで4人の子供がいます。日々の家事と仕事に追われながら、毎年の暑い時期になると高校剣道部時代を思い出します。厳しくもまだ剣道を楽しむ余裕があった中学生までの私は、高校でも剣道部に入ろうかなあと漠然と考えていました。筑前高校に入学が決まり、ワクワクしていた春休み。一本の電話がかかってきたことにより入学前から中学の制服を来て筑前高校へ稽古に行くことになったのです。

当時の剣道部の顧問は(故浅田青児先生)、私の祖父の高校の教え子でありました。入学者名簿を見て孫の名前を見つけ連絡されたようでした。やさしく誘われたので行ってみると、翌日から防具を持って長崎県への遠征について来るよう言われました。

剣道一家に生まれながら、無理に剣道をさせられたわけでもなく(むしろ女の子だからしなくてよいと言われていました)試合の勝敗や運びについて厳しく言われたこともありませんでした。筑前高校を受験した時も、浅田先生が顧問であることは知らずにいました。祖父は知っていたのか知らなかったのか私には何にも言いませんでした。入部を決めた時にあいつは真面目だからついていきなさい、とだけ言われたと思います。

中学では大会で名前を残したこともない私が、高校2年の夏に中部地区予選を突破し、個人戦で県大会に進み、玉竜旗では二回戦で五人抜きを果たしました。どの試合もあまりに夢中で内容はほとんど覚えていません。抜いてやろう、勝つてやろうなどとは考えず、ただ自分の得意技である出小手を叩き込むことに集中していたように思います。実際、県大会出場を決めた時も試合を全て終えた時に知りました。玉竜旗で五人抜いた時も共に戦ったチームメイトの歓声と拍手で試合を終



福岡県立筑前高等学校平成4年度剣道部

えたことを知りませんでした。負けるかもしれないなどとは思わず、ただ、厳しい稽古を重ねてきたこと、誰よりもきつい思いをしてきたことの自信だけで前へ前へ出て行ったと思いません。お前は背が低いから腕も足も短いんだから、相手が一打つ間に二打て。二打たれたら三打たないとだめ

だ。毎日毎日言われる言葉といつまでも終わらない掛かり稽古。切り返しも50本100本を何度も繰り返して、家に帰り着くと玄関先で寝ていたこともありまし。二年生の1年間は浅田先生に加え、本校三期生の樋口謙先生、現在中学校教師の清水克則先生の3人体制でした。試合で結果を残したこの時は怖い物知らずで、思い切つて試合に臨んでいましたが、三年生の時は皆に期待されていた重圧と我が身の守りに入ったため、良い結果を残すことなく引退しました。自分の弱さを改めて感じ涙が止まらなかったことを覚えています。しかし努力が必ず報われるわけではないことを知り、これも良い経験だったと思います。

今までの人生で高校の三年間よりきつい思いをしたことは、48歳の現在もまだありません。

私の人生にとって大事な大事な三年間でした。私が高校時代の剣道で得たものは玉竜旗で五人抜いたことではなく、「自分に悔いを残さない稽古ができたこと」だと思っています。目の前の事から逃げず、きつくと分かっているも辞めなかったことだと思えます。玉竜旗はもう始まりです。悔いを残すことのない稽古を最後まで続けてください。そしてそんな自分を信じてください。

筑前高校の健闘を祈ります！